

ふじたに  
**藤谷** のりゆき  
**謹至** 議員

## 帯広広尾高規格幹線自動車道忠類開通に 備えた周辺整備と観光・定住対策について

南十勝の玄関口忠類は観光ルートの一部として旧忠類村時代からの道の駅、アルコ236、ナウマン公園、ナウマン象記念館を国道沿いに建設し、観光の推進を図ってきた経緯がある。

高規格幹線自動車道忠類IC供用目前にして、今こそ忠類地域の観光振興と地域活性化を推進する時期にあると考える。

そこで以下の点について伺う。

- ①道の駅周辺における整備計画について。
- ②定住促進に繋げるための方策について。
- ③高規格道路により帯広など中心市へのストロー現象も懸念され、市街地における経済などの影響が考えられるが、その対策について。
- ④観光の振興によって情報収集、提供、サービスのきめ細かさなどが求められると思われるが、忠類総合支所に観光課を設置する必要性について。



道の駅 忠類

町長 ①忠類地域の観光振興は、通過型観光から滞在型観光への転換の必要性和、道の駅周辺の整備と有効活用が必要であり、インター線道路周辺の整備や案内看板の設置、道の駅周辺の駐車場の改修などについて、関係機関などの意見を踏まえ、引き続き北海道開発局と協議を行いたい。

②管外・道外からの人口の呼び込みに引き続き取り組み、あおぞら団地の価格や環境をPRし、住宅建設に必要な助成などの検討をして、忠類地域の魅力を伝えたい。

また、定住促進は通勤時間の短縮はもとより、総合的な生活環境や地域の魅力を向上させることが重要であり、今後もインフラ整備や住民活動の支援を含めた定住環境の改善に努めていきたい。

③特効薬的な対策はないというのが現実であるが、少しでも流出を防ぐためどういった対策が考えられるか、また町としてどういった支援ができるのか、商工会をはじめ関係者と一緒になって協議を進めていきたい。

一方では、「人」の行き来が盛んになるこのときを好機ととらえ、町内観光資源を結ぶ魅力的な観光ルート開発や、地域の情報を広く

発信し、「行ってみたい」「もう一度行きたい」「ここに住みたい」という魅力を高め、交流人口の増加と地域の活性化に結びつけていかなければならないと考えている。

④現在、幕別町行政改革大綱推進計画の後期推進計画策定のため、「行政改革推進本部」を本年8月に立ち上げて組織機構の見直しの検討を進めている。

今後の住民ニーズや行政課題に、機敏に対応できるコンパクトな組織機構の構築を念頭に、本庁と忠類総合支所の機能分担をはじめ、観光の充実・強化が図られる組織体制について検討していきたい。

**再質問** ①スキー場宿泊ロッジを活用した「お試し暮らし」の利用状況は。

②高規格幹線道路はあと3年と数カ月で開通するが、具体的な観光振興を策定していく作業は急務であると考えるが見解を。

**答** ①平成22年は3件、平成23年はこれからの利用も含めて8件である。

②私どもも引き続き行政の立場、そしてまた商工会の皆さん方と地域の皆さん方の意見等もいただく中で進めていきたい。

今後の住民ニーズや行政課題に、機敏に対応できるコンパクトな組織機構の構築を念頭に、本庁と忠類総合支所の機能分担をはじめ、観光の充実・強化が図られる組織体制について検討していきたい。